

授業科目名： 英語文学講読（２）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：武井 博美 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
「学位授与の方針」との関係			
星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。			
A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。			
B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。			
C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。			
D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。			
E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。			
F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ			
授業のテーマは、「短篇の名手」と謳われた20世紀のイギリス作家ロアルド・ダール（Roald Dahl, 1916-90）の作品を手掛かりに、文学作品の味わい方を学ぶことである。			
到達目標は、以下の2点となる。① ダールの短編を精読し、シンプルな英語の中に秘められた豊かな表現力を理解すること。② ノルウェーの移民だった両親を持ち、戦時下ではイギリス兵として戦い、のちにアメリカに渡ってアカデミー賞女優と結婚し、晩年は再びイギリスに戻ったダールの作家人生をとおして、歴史的・文化的背景を含め多様な視点を持った考察ができるようになること。			
授業の概要			
イギリス作家ロアルド・ダールは、日本では大ヒット映画『チャーリーとチョコレート工場』(Charlie and the Chocolate Factory, 1964)の原作者として児童文学の世界ではよく知られているが、実は大人向けの戦争小説でも評価が高い。彼は第二次世界大戦で戦闘機パイロットとして従軍した体験をもとにいくつかのショート・ストーリーを書き、小説家デビューを飾っ			

た。英文はシンプルで、全体的に軽妙でコミカルな味わいがあり、時にブラックユーモアと皮肉が効いた作風である。この授業では作品の精読をととして英語力を向上させるとともに、文学作品の味わい方を学ぶ。

授業計画

- 第1回：文学史概説、ならびに文学上のジャンルと短篇小说の特徴について
- 第2回：“Death of an Old Old Man” 精読①：冒頭部の重要性について
- 第3回：“Death of an Old Old Man” 精読②：比較・対照の効果について
- 第4回：“Death of an Old Old Man” 精読③：作品のテーマについて
- 第5回：“Death of an Old Old Man” 作品論を書く上での注意点
- 第6回：“An African Story” 精読①：前半部の若き飛行士の行動を中心に
- 第7回：“An African Story” 精読②：後半部の復讐譚を中心に
- 第8回：“An African Story” 精読③：作品の構成について
- 第9回：“An African Story” 作品論を書く上での注意点
- 第10回：“Someone Like You” 精読①：登場人物の分析
- 第11回：“Someone Like You” 精読②：会話文と地の文
- 第12回：“Someone Like You” 精読③：タイトルの意味
- 第13回：“Someone Like You” 作品論を書く上での注意点
- 第14回：他の短編作品について
- 第15回：まとめ

定期試験

教科書

Roald Dahl, *Over to You: Ten Stories of Flyers and Flying*. Penguin Modern Classics, 2010. ISBN: 978-0141189659

参考文献

別途、指示する。

学生に対する評価

レポート評価（50％）、科目修得試験（50％）を総合して評価する。